

2017年5月9日
京成電鉄株式会社

より安全に、更なるサービスの向上を目指して
2017年度 鉄道事業設備投資計画
前年度比39億円増(+33%)の総額157億円

京成電鉄（本社：千葉県市川市、社長：三枝 紀生）では、2017年度、鉄道事業で総額157億円（2016年度比 +39億円（33%）増）の設備投資を実施します。お客様により安全・快適にご利用いただけるよう、駅ホームにおける安全性向上や鉄道施設の強靱化などの安全対策の強化、駅施設のリニューアルやお客様案内の多言語化などのサービス向上に取り組みます。

詳細は別紙のとおりです。

<概要>

(1) 安全対策の強化

- ・日暮里駅にホームドアを設置します。
- ・ホーム上の非常通報ボタンとC-A-T-S（自動列車停止装置）との連動化に着手します。
- ・ホーム上への内方線付点状ブロックの整備を推進します。
- ・大規模地震への対策として駅舎、高架橋柱、橋脚の耐震補強工事を推進します。
- ・風水害対策として法面補強工事を実施します。
- ・省エネルギー車両の3000形（8両×3編成）を新造します。
- ・押上線 葛飾区内（四ツ木駅～青砥駅間）の連続立体交差事業を推進します。
- ・スカイライナー（A E形）車両の防犯カメラ更新を完了します。

(2) サービス向上

- ・京成上野駅のリニューアル工事に着手します。
- ・お客様トイレのリフレッシュを推進します。
- ・京成大和田駅、鬼越駅をバリアフリー化します。
- ・駅や車内におけるお客様案内の多言語化を推進します。
- ・ホーム上に行先表示器を新設します。
- ・スカイライナー（A E形）車両に車椅子スペースを増設します。

(3) 環境対策

- ・更なる環境負荷の低減を図るため、駅・車内照明のLED化を推進します。

(別紙)

2017 年度 鉄道事業設備投資計画について

1. 投資額 157億円

2. 主な取組み

(1) 安全対策の強化

① 駅ホームにおける安全対策の強化

●ホームドアの設置

駅ホームからの転落や触車による事故を防止するため、ホームドアを日暮里駅に設置します。

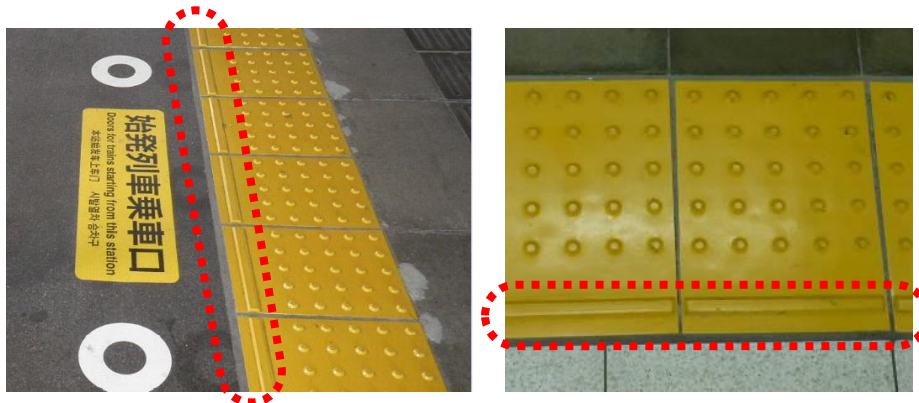


▲日暮里駅に設置するホームドア（イメージ）

●内方線付点状ブロックの敷設

視覚に障害をお持ちのお客様が駅ホームから転落する事を防止するため、ホーム内側部分に線状の突起を付け、ホームの内外を知らせる内方線付点状ブロックを京成大和田駅等に敷設します。

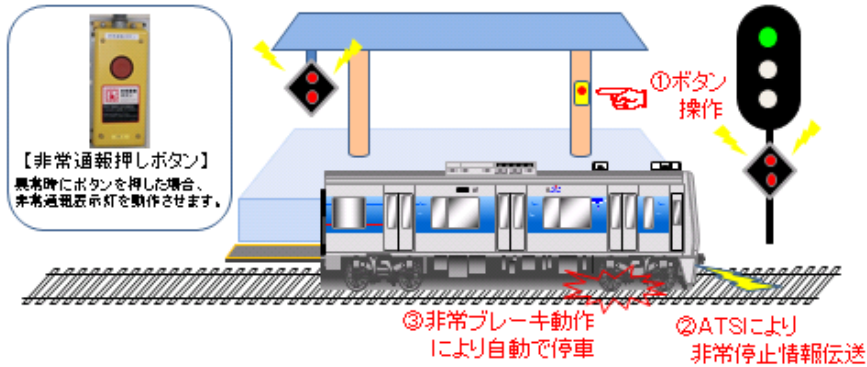
なお、乗降人員が1万人/日以上駅のについては、2018年度までに全駅で整備を完了します。



▲内方線付点状ブロック

●非常通報ボタンのC - A T S連動化

2019年度までの全駅完了に向け、ホーム上の非常通報ボタンをC - A T S（列車自動停止装置）と連動させ、非常通報ボタンを押した際に自動的に列車を停止させる連動化工事に着手します。



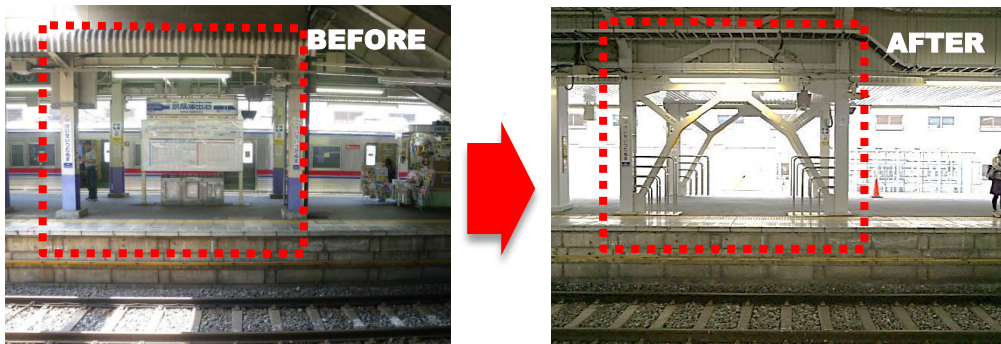
▲非常通報ボタンのC - A T S連動化イメージ

●その他

お客様にホーム端であることを視覚的・心理的に注意喚起するCP（Color Psychology）ラインの設置を進めます。

② 耐震補強工事

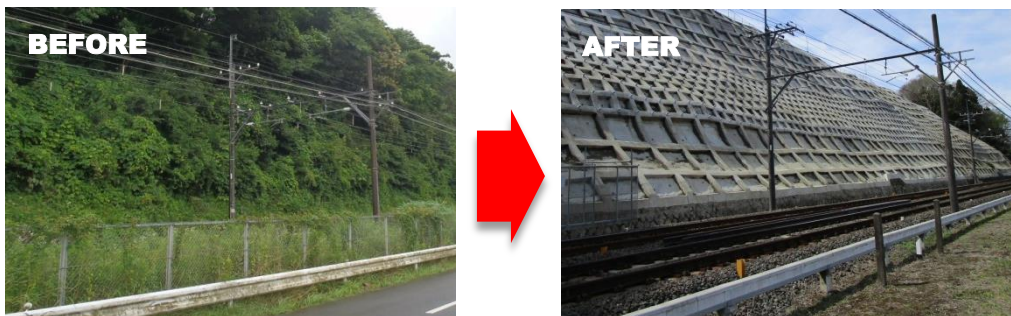
大規模地震への対策として、駅舎（お花茶屋駅）、高架橋柱（京成成田駅～空港第2ビル駅間等）および橋脚（京成成田駅～空港第2ビル駅間等）の耐震化に引き続き取組みます。



▲京成津田沼駅 耐震補強工事の様子

③ 法面補強工事

集中豪雨などにより法面（線路脇斜面）の土砂が流出することを防ぐため、京成臼井駅～京成佐倉駅間および京成稲毛駅～みどり台駅間等で、法面の補強工事を実施します。



▲京成臼井駅～京成佐倉駅間 法面補強工事の様子

④ 鉄道施設の更新・改良

安全性の維持・向上のため、軌道・電気設備など、各種鉄道施設の計画的な更新・改修工事を実施します。

軌道設備については、線路の下に撒く碎石の厚みを増す工事や、軌道変位が生じにくいマクラギ（ラダーマクラギ）への交換などを実施し、運転保安度の向上ならびに乗り心地の改善を図ります。

電気設備については、変電所の設備機器更新などを実施し、安定的な電力供給を図ります。

踏切設備については、検知方式を3次元レーザレーダ式とした踏切自動障害物検知装置への更新や踏切監視カメラの更新などを実施し、運転保安度の向上を図ります。

そのほか、高架橋の床版改修工事やコンクリートの剥落防止工事を実施します。



▲高架橋床版改修の様子

⑤ 車両新造

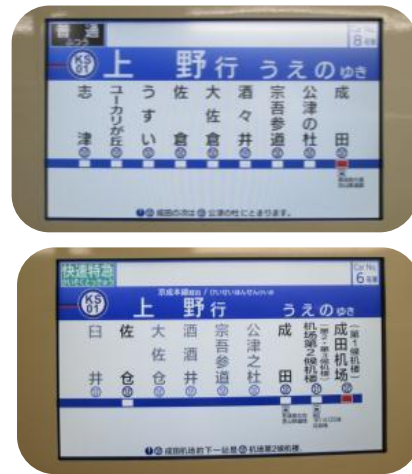
電力回生システムを備えた省エネルギー車両の3000形（8両×3編成）を導入します。

この車両は、省エネルギー性に優れたVVVFインバーター制御を採用しているほか、全ての客室内照明に節電効果の高いLED照明を採用し、消費電力の低減を図ります。

さらに、車いすスペース（1編成あたり2か所）や、4か国語（日・英・中・韓）でのご案内が可能な17インチの液晶ディスプレイ（LCD）を設置するほか、窓ガラスには紫外線を遮るUVカットガラスを採用します。



▲新造する3000形車両



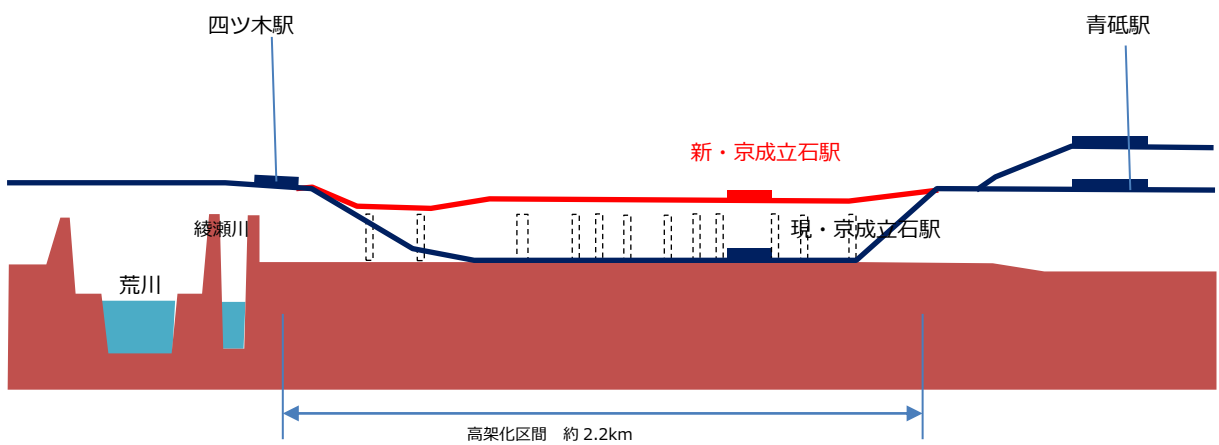
▲多言語案内可能な17インチの液晶ディスプレイ

⑥ 連続立体交差事業の推進

● 押上線（葛飾区内）連続立体交差事業（四ツ木駅～青砥駅間2.2km）

昨年度事業完了した墨田区内に続き、葛飾区内（四ツ木駅～青砥駅間）の連続立体交差事業について、残る用地の取得を進めるとともに、準備工事を進めます。この事業が完了すると、平和橋通りなどの沿線にある11カ所の踏切が除却され、道路・鉄道それぞれの安全性が向上するほか、踏切による交通渋滞が解消します。これに伴い、これまで鉄道により分断されていた市街地の一体化を図ることができ、魅力あるまちづくりが推進されます。

<縦断面図>



⑦ 防犯カメラの機能向上

更なるセキュリティの向上・犯罪の抑止に向け、各駅の防犯カメラをより高解像度のものに更新します。また、主にスカイライナーとして使用するA E形車両について、デッキ部および荷物室スペースに設置している防犯カメラを更新し、新たに客室内を撮影範囲に加えるなど、機能向上を図ります。今年度中に全編成の更新を完了します。



▲ A E形に設置している防犯カメラ

(2) サービスの向上

① 駅・施設リニューアル工事

●京成上野駅リニューアル

今年度よりコンコースフロアを中心とした全面的なリニューアル工事に着手します（2018年度未完成予定）。京成上野駅は、緑豊かな上野公園内に位置し、周辺には博物館、美術館、動物園、音楽ホール等の文化・芸術施設が集結していることから、リニューアルコンセプトを「緑や文化との融合」とし、文化・芸術の一大拠点にふさわしい駅空間を創造するとともに、日本の玄関口として駅機能を充実させることにより、上野エリアの更なる魅力向上に貢献します。



▲リニューアル後の駅構内（イメージ）

●お客様トイレのリフレッシュ

成田空港駅と京成大和田駅のお客様トイレをリニューアルします。

また、その他の駅においても、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックを見据え、お客様トイレの洋便器化・温水洗浄便座の設置を進めます。



▲リニューアル後のお客様トイレ（京成千葉駅）

② 駅のバリアフリー化

- ・鬼越駅、京成大和田駅

スロープ、多機能トイレを設置します。



▲バリアフリー化工事で設置されたスロープと多機能トイレ（京成中山駅）

③ 駅や車内におけるお客様案内の多言語化

- 駅

全駅に設置されている運行情報ディスプレイを日・英の2か国語対応から4か国語対応（日・英・中・韓）に対応言語を拡大します。

英語	中国語	韓国語
<p>京成本線 上下線 東中山 ～ 京成津田沼</p>	<p>京成本線 上下線 東中山 ～ 京成津田沼</p>	<p>京成本線 上下線 東中山 ～ 京成津田沼</p>
<p>× 運転見合わせ</p>	<p>× 運転見合わせ</p>	<p>× 運転見合わせ</p>
<p>原因 信号故障</p>	<p>原因 信号故障</p>	<p>原因 信号故障</p>
<p>Keisei Main Line Inbound & outbound lines Between KS19 and KS26</p>	<p>京成干线 顶线和底线 KS19 ～ KS26</p>	<p>케이 세이 본선 상하 선 KS19 ～ KS26</p>
<p>status: Operation suspended</p>	<p>状况: 驾驶暂停</p>	<p>상황: 운전 보류</p>
<p>1/1 cause: Accident</p>	<p>1/1 原因: 信号故障</p>	<p>1/1 원인: 신호 고장</p>

▲運行情報ディスプレイ 英語・中国語・韓国語の表示イメージ

- 車両

現在 LED 車内案内装置が設置されている既存の3700形車両、3000形車両の一部について、車内案内装置を4か国語（日・英・中・韓）でのご案内が可能な液晶ディスプレイ（LCD）に更新します。

④ スカイライナー（AE形）車両への車椅子スペース増設

車椅子をご利用のお客様の利便性をより向上させるため、現在5号車に1箇所設置している車椅子スペースを2箇所に増設します。

⑤ 行先表示器の設置

列車の時刻・種別・行先等をご案内する行先表示器を京成関屋駅、お花茶屋駅、京成千葉駅の3駅に設置します。



▲行先表示器の設置イメージ（船橋競馬場駅）

(3) 環境対策

① 駅・車内照明のLED化

更なる環境負荷の低減を図るため、駅施設等の照明のLED化を推進します。

また、今年度新造する3000形車両（8両×3編成）の客室内照明を全てLED照明とするほか、既存の3700形車両（8両×2編成、6両×2編成）の客室内照明をLED照明に変更します。

② 環境にやさしいクーラーへの交換推進

車両のクーラー更新に伴い、冷媒をオゾン層への影響が少ないフロンに交換します。

③ お客様トイレの節水化

お客様トイレのリフレッシュに伴い、トイレの便器や洗面器具を節水対応のものに交換します。

以 上